

農産物特産化事業

自治体情報

三重県菰野町

人口 / 40,206人

標準財政規模 / 7,825百万円

担当課 観光産業課

電話番号 直通 059-391-1144

実施主体 菰野町

関連ホームページ

事業期間 平成20年度から

関係施策分類 ④

予算関連データ

総事業費：1,630千円

名称	所管	金額(千円)
一般財源	-	1,630

施策のポイント

町名由来の「マコモ」及び町発祥の「関取米」は、菰野町を象徴する貴重な地域資源として、全国へ発信しながら「町おこし」を町ぐるみで行っている。特に、農業者、商工業者、行政関係が一体となりながら、町全体を活性化するための施策を実施している。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

当町は、湯の山温泉などの観光資源や鈴鹿山脈に広がる農地などの自然資源を有し、持続可能な「観光と農業のまち」を強く推進している。「マコモ」「関取米」は、歴史的な背景のある地域資源として着目し、第1次産業(農業)から第3次産業(観光)まで連携できる産業振興事業に取り組んでいる。この価値ある資源は、地場産業の根幹と位置づけながら農業の活性化を図りつつ、特産化事業を展開している。

2. 取組の具体的内容

「マコモ」は、平成20年度において50aの作付面積であったが、平成21・22年度「マコモでこもの町おこし協議会」の事業実施により、180aの作付面積へと飛躍的に広がりを見せた。全国的な問題として、農地が耕作放棄地化される中、従来の荒地を解消しながら「マコモ」を作付けするという画期的な方法により実施面積を拡大させた。また、「マコモ」生産が過剰供給とならないために、出口戦略として商工業者、観光業者と緊密に連携しながら、無駄のない安定した販売体制を構築した。

「関取米」は、160年前に当町で発見された歴史ある地域資源であり、県、関係機関から注目を集めている。現在4農家が、160aを作付けしながら、商工業者、温泉街等へ食材の提供を実施し、地場産の優れた米を多くの方々に食していただくと共に広くPRしている。今後は、かつて一世風靡した「関取米」を再び全国展開できるよう官民一体となりながら事業展開している。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

「マコモ」「関取米」のいずれにおいても、栽培農家の確保、作付面積が少ないことから、年々増加させていくことを目標に取り組んでいる。農業者は、「町おこし」という役割を担っているという「やりがい」を感じ、じわじわ多方面に数値的な広がりを見せている。「マコモ」「関取米」という町特産品が全国に広まり、町全域で需要に見合った数量を生産できるような仕組みづくりを実施する。

4. 現在までの実績・成果

現在、町産「マコモ」は、需要と供給のバランスがよく、商工業者、観光業者への普及も着実に進み、町特産品化により「町おこし」の一環となった。また、多くの関係機関からの先進地視察が行われ、全国的にも認知されるようになった。

「関取米」は、過去の産物として埋もれている中、関係者の努力により栽培復活され、一躍注目されるようになった。今後、この伝説の「関取米」を扱いたいという要望が数多くあり、町の特産品として位置づけながら広く事業を実施する。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

「マコモ」「関取米」は、栽培方法等が確立されていない状況であり、農家の経験と努力によって作付されている現状である。今後、安定した供給と生産ができるよう技術検討会を実施しながら取り組んでいる。また、平成23年度から三重県農業研究所の協力と指導を受け、技術栽培の研究により少しずつであるが改善されている。

6. 今後の課題と展開

持続可能な「観光と農業のまち」として、全国において認知されるよう発信し続け、町全体が活気あふれるまちとなるよう事業展開する。